

## 社会保険委員会

委員長：金子 剛

担当理事：大西 清

委員：相原 正記、秋元 正宇、朝村 真一、井砂 司、井田夕紀子、  
宇田川晃一、大久保文雄、大城 貴史、荻野 浩希、垣淵 正男、  
木村 得尚、小室 裕造、佐武 利彦、島田 賢一、関堂 充、  
高木 信介、鳥山 和宏、難波祐三郎、二ノ宮邦稔、野村 正、  
本多 孝之、杠 俊介、吉本 浩

開催年月日：①2018年4月13日(全体)、②2018年10月18日(全体)

その他 適宜 e-mail 委員会

活動の概要：

### 1. 2020年度診療報酬改訂要望について（[]内は要望書作成者）

#### ①新設：5件

- a. 自家脂肪注入術：今回は厚労省より、遠心機の薬事承認が問題とされたが、2019年1月に汎用検査室用遠心機の使用目的が、“本品は遠心力を応用して懸濁液の成分（脂肪細胞を含む）を分離するために用いる”と変更された。これにより自己脂肪注入を目的に販売・使用が可能となった。[鳥山委員]
- b. 皮下良性腫瘍摘出術 露出部8cm以上：[二ノ宮委員]
- c. 皮膚良性腫瘍摘出術 露出部8cm以上：[二ノ宮委員]
- d. 自家皮膚細胞移植術：RECELLキットを使用した自家皮膚移植（細胞）を320未満、640未満、1920未満の三分区で外保連試案に登録済み。  
[東京医大松村先生]
- e. 先天性リンパ浮腫・静脈奇形の弾性ストッキング固定：指管理料の新設を目指していたが、根拠が不十分ということで、静脈奇形の弾性ストッキング固定（採寸・印象）、リンパ管腫の弾性ストッキング固定（採寸・印象）を外保連試案に登録した。片側肢、両側肢、四肢から体幹の3区分。[杠委員]

#### ②改正：7件

- a. 創外固定加算 下顎への適応拡大：昨年の追加 [小室委員]
- b. NPWTの一次縫合創・植皮への適応拡大：外科一般の適応拡大の基準に当てはまらなると考えられる形成外科手術について、島田委員を委員長としてWGを立ち上げて検討した。[島田委員]

PICO・Prevenaを用いたNPWTの適応について

一次縫合創に対する適応

- ・「創離開・皮膚部分壊死・創感染が予想される」縫合創、
- ・皮弁手術（遊離皮弁、動脈皮弁、筋皮弁）の固定
- ・乳房再建手術の1次縫合創に対する固定
- ・四肢切断・足指切断術後の1次縫合創の固定
- ・デブリードマンを要する創の閉鎖手術

### 植皮手術に対する適応

- ・関節可動部位の固定
- ・移植床の形状が不整で通常の方法では固定が困難と考えられる場合
- ・筋上，筋膜上，骨膜上への植皮

なお、上記の目的で使用する場合は最大7日間とする。

- c. 乳房インプラントの先天異常、胸部熱傷瘢痕などへの適応拡大：乳がん学会、乳房オンコプラスチックサージャリー学会と共同要望 [関堂委員]
- d. 術中血管等描出撮影加算の適応拡大：[佐武委員]
- e. 乳房再建術の増点：手術請求点数における吸収糸のコストを調査したところ、小児の手術では3～8%（成育医療センター）、成人の手術でも平均6.8%（慈恵3病院）であった。そのため吸収糸コストによる増点要望を断念した。K017 遊離皮弁術 1 乳房再建術の場合が2 その他の場合より点数が低く設定されており不合理である。この是正を要望する。[佐武委員]
- f. 超音波凝固切開装置の適応拡大：[九州大学門田英輝先生]
- g. 同一部位への複数皮弁移植：[長崎大学田中克己先生]
- h. 眼瞼内反症手術 切開法の増点：眼科手術学会と共同要望 [作成は眼科手術学会 日本医大村上先生]

### ③材料：1件

RECELL キット：自家皮膚移植術に用いる皮膚を細片化する。大きさにより3種あり。[東京医大松村先生]

## 2. 外科系学会保険委員会連合（外保連）関連

以下のように委員会に所属して活動を行った。途中で二ノ宮委員から佐武委員に交代した。

手術委員会：関堂委員，二ノ宮委員→佐武委員

(同) コーディングワーキンググループ：相原委員

(同) 医療材料・医療機器ワーキンググループ：前川委員

(同) 新しい評価軸検討ワーキンググループ：関堂委員

処置委員会：小室委員，荻野委員

(同、新設) 処置コーディングワーキンググループ：荻野委員

検査委員会：二ノ宮委員→佐武委員，荻野委員

実務委員会：関堂委員，大城委員

## 3. 日本医師会疑義解釈委員会・保険適用検討委員会関連

委員長が委員として参加している。2018年7月に、金子委員長が副委員長（外科系）に選任された。形成外科としては中村純次先生以来二人目となる。形成外科関連では供給停止検討事案が2件あった。

①アラガン社製人工乳房（乳房インプラント）について、委員会に諮った結

果、今回の対象はすべてラウンドタイプであり供給停止として差し支えないという意見であったため、そのように答申した。

②PMT 製エキスパンダーの供給停止については、日形会としては代用品がないこと、小児医療には必須であることを理由に反対の答申を行なった。その結果企業から供給停止の撤回の連絡があり、当面は継続して供給されることとなった。

③ストライカー社製コンパートメント内圧モニターの供給停止については、委員会に諮った結果、コンパートメント症候群の診断には必須の医療器械であること、動脈血圧モニターで代用可能としているが薬事承認が確認できないこと、生産国ではストライカー社から他社に移譲して販売を継続していることがわかった。厚労省に対してさらに情報提供を求めて再検討することとした。

#### 4. DPC 関連

次年度診療報酬改訂時に向けて診断群分類の見直しのための検討会に秋元委員が MDC16 外傷の班長として参加している。厚労省側からはこれまでに引き続き横断的検討の依頼があり、社保委員会で以下の様に分担して検討を行っている。

MDC2 眼科：大久保委員

MDC3 耳鼻咽喉：

MDC7 筋骨格：二ノ宮委員

MDC8 皮膚：相原委員（班員）

MDC9 乳房：佐武委員

MDC14 新生児・先天奇形：宇田川委員

MDC16 外傷：秋元委員（班長）、井砂委員（班員）、荻野委員（班員）、二ノ宮委員（班員）

#### 5. 日本小児期外科系関連学会協議会（JPASS）関連

各学会から委員は2名。鈴木啓之先生（千葉県こども病院）から野口昌彦先生（長野県立こども病院）に交代した。

2018年9月26日定例会議：委員長と野口昌彦先生が出席した。社保関連では、2020年度改訂では処置・検査の乳幼児加算および新生児加算の対象技術の拡大を目指すとのことであった。

2019年2月7日 社員総会：野口委員が出席。

主な活動内容：

1. 疾病登録と保健・医療情報の電子化に関する委員会立ち上げ  
極低出産体重児向け育児支援アプリケーション説明および対象・利用拡大を目指した活動
2. 小児周産期災害医療対策委員会の立ち上げ  
災害時小児周産期リエゾン運法内規(案)の承認  
県を超えたりエゾン情報交換を目的としたリエゾン連絡協議会の設立に向け、発足時事務局を JAPSS に置くことが提案され

た。

3. 診療報酬改定に向けた働きかけ  
乳幼児・小児加算の充実を優先とした検討  
成育医療基本法の成立を踏まえた検討

## 6. 広報活動

### (1) 社保関連教育講演

日時：2018年4月13日 10:00~11:00

テーマ：平成30年度改訂とその考え方 ―新しい評価軸―

座長：大西担当理事、金子委員長

演者：関堂 充委員、荻野浩希委員

内容：本年度の改訂内容の説明と、厚労省が導入しつつある医療の新しい評価軸と診療報酬への反映、外保連の取り組み等について紹介した。

### (2) 自家脂肪注入ガイドラインセミナー

日時：2018年4月13日 14:20~15:50

委員長：関堂 充（自家脂肪注入ガイドライン委員長）

座長：櫻井裕之理事（学術委員会委員長）、大西 清担当理事

演者：1. 金子 剛：自家脂肪注入術の保険収載要望の現況

2. 水野博司：自家脂肪注入術の基礎

3. 関堂 充：自家脂肪注入術のガイドラインの概略および Romberg 病や強皮症などに対する自家脂肪注入術

4. 小室裕造：顔面変形に対する自家脂肪注入術

5. 佐武利彦：乳房再建における適応と施行の実際

6. 浅野裕子：脂肪注入を利用した乳房再建のアルゴリズム

### (3) 特別セミナー：自家脂肪注入術の保険適用にむけて

日時：2018年10月19日 13:20~14:50

内容は前項と同一。（以上敬称略）

## 7. 委員会での継続検討事項

以下の項目について継続的に情報収集、検討を行った。

①乳頭乳輪の tattoo

②兔眼に使用するゴールドインプラント

③血管腫・血管奇形の硬化療法

④先天異常疾患管理料

⑤E 入りキシロカインの手外科手術、耳介手術の禁忌解除について

⑥陰圧閉鎖療法に使用する VAC Ultra の請求について垣淵委員より支払い基金では厚労省からの指示で、当日のみ併算定を認めることになったとの情報提供があった。

⑦全国の審査委員間でのコンセンサス構築について